

人の嵐山 心の嵐山 教育の嵐山

(平成 26年 第1回定例議会及び活動報告)

たかみつ

さくま孝光

HP: <http://www.sakumatakamitsu.com>

嵐山町議会議員

〒355-0221 比企郡嵐山町菅谷445-11 電話:080-5071-7360 FAX:0493-62-8863

2014年4月



《嵐山町は真の国際人育成理想の地》

嵐山町は、坂上田村麻呂、木曾義仲、畠山重忠、元の空阿弥（元空綱）等歴史的に名をはせた偉大な人物のみならず、この地を「武蔵嵐山」と命名した日本初の林学博士本多静六先生、日本農士学校の創立者であり、元号「平成」の考案者とされる安岡正篤先生らの日本を代表する優れた先人に縁のある地であります。と同時に世界への窓口ともなり得る国立女性教育会館も存在します。また、政治にしても、経済にしても、文化にしても日本の国、一国で成り立つものは今や一つとして存在しません。このような時代の流れ、国際社会の中における日本の立場や今後の見通しを考える時、コミュニケーションの道具としての英語は欠かすことはできません。国は英語教育において大きく舵を切り、今の子どもたちが社会に出た時にしっかりと国際社会の中で力強く、逞しく生き抜き、貢献できるグローバルな視野を持つ人材育成に繋がる英語教育へと根本的、抜本的見直しを進めつつあります。昨年12月13日の読売新聞によると、民間企業などで働いた経験のある人を県が採用する経験者採用で「162人全員不合格」であったことを県が発表しました。そこで求められたのはやはり**国際性**です。昨年末から本年1月、2月にかけて文部科学省は中学校英語の英語での授業、学力別授業の導入等々矢継ぎ早に英語教育の改革プランを発表しています。下村文科相も「受験英語から外国人とコミュニケーションが取れる英語への大きな転換だ。」とその思いを強調した。同時に「真の日本人としての意識、アイデンティティーがないと世界で通用しない。今まで以上に日本の伝統や文化についての教育を行うべきだ。とも述べている。私も全く同感です。英語が話せるから国際人。とんでもない事です。英語など出来なくても国際的に大きな貢献をされておられる方は沢山います。しかし、時代の流れ、国際社会の中における日本の立場を考える時、避けては通れないことだとも思います。

日本人としてのアイデンティティーをしっかりと持ち、歴史を重んじ、自然を愛し、世界に目を向けられる真の国際人が一人でも多く嵐山の地より巣立ってくれますことを心より願っております。

平成26年 第1回定例会

○災害時相互応援協定は、締結後が重要

昨年木曾義仲ゆかりの地として富山県小矢部市、長野県木曾町とそれぞれ災害時相互応援協定を結びました。この背景には阪神淡路大震災、東日本大震災等の巨大地震の発生があります。ですから今までの嵐山町地域防災計画も地震への対応、対策が主なものでした。しかし、今年の滑川町、熊谷市の竜巻被害、2月のあの大雪を経験した今、風水害、雪害、竜巻等の自然災害全般に渡る一歩踏み込んだ計画が必要だと考えます。

災害時相互応援協定には、大災害により通信網が破壊された状況も想定されており、嵐山町から応援要請が出せなくても自発的に食糧や生活必需品、医療、復旧に必要な車

両等の提供、職員の派遣等々嵐山町民にとっては大変心強い条項が含まれています。

しかしながら、どんなに完璧と思われる協定を結んでも、人知を超えて発生するのが自然災害です。この協定を更に機能する、実質的なものにするには公的な繋がりのみならず、住民と住民の心の結びつき、理解や信頼が不可欠です。それらをより強固なものにするために、「来年春の北陸新幹線開通までは研修旅行等には木曾町や小矢部市を加えて下さい。」と各種団体に呼び掛けたり、町が「災害時相互応援協定締結ツアー」（仮称）等を主催し、積極的に町民同士の交流を図ることも一助となると考えます。また、夏休み等を利用して嵐山の子もたちが木曾町の子もたちと一緒に木曾義仲について学んだり、小矢部市の素晴らしいところを作文に書いてプレゼントするなど色々な交流が考えられます。嵐山町と木曾町・小矢部市の住民の信頼関係に立脚した“心と心の協定”に育てていくことを願います。

○平成25年度3月主な補正（千円以下切り捨て）

- ・各小学校・中学校（普通教室等）に空調設備設置実現！でも1学期は間に合わないかも。3小学校1億4170万円（3220万円は国、1億950万円は町の借金、志賀小下水道工事費含む）
2中学校7086万円（1197万円は国、5730万円は町の借金、一般財源158万円）菅中通級指導教室改修工事含む
- ・除雪のための機械器具借上料 1700万円



児童・生徒が授業中に工事が進められず安全面からも夏休みに実施予定

○平成26年度当初予算の主な事業（千円以下切り捨て）

駅東西連絡通路塗装修繕工事等負担金
(駅外観が綺麗になります。鳩のフン対策も)
6372万円（内5710万円は町の借金）
東武鉄道に支払います。

槻川の川のまるごと再生事業
(バーベキュー場付近が益々整備されます)
3130万円（内県1500万円、町の借金1430万円、繰入金200万円）



- ・自然緑地管理活用事業（自然緑地等の保全・整備、快適性の増進のための経費）
713万円（内408万円大平山山頂公園等借用地一部購入5099.9㎡）
- ・フィットネス21パーク健康遊具整備（役場前の公園） 860万円（宝くじ普及広報事業を財源 100%補助 とってもラッキーです。）
- ・出産一時金（被保険者が出産した時に出産育児一時金として支給するための経費）
672万円（42万円×16人分） ※詳細は、町民課 ☎62-2154
- ・保育所保育事業（嵐山若草保育園建替、おもちゃ図書館開館日数増）1億1055万円
12分の8県補助、12分の1町補助
- ・小中一貫教育推進事業（中1ギャップ解消等）玉ノ岡中学校区へも拡大 463万円
- ・子育て世帯臨時特例給付金事業（消費税引き上げに際し、子育て世帯への影響を緩和す

るとともに、子育て世帯の消費を下支えするため、臨時的な給付措置を実施するための経費) 1947万円 (対象児童1人につき1万円)

- ・ **子育て世帯等転入奨励事業** (子育て世帯等の転入の増加促進を図り、人口減少を抑えるための経費) 1045万円 (1000万円転入奨励金+45万円パンフレット作成費)
嵐山町内に新築住宅購入20万円、中古住宅購入10万円、中学生以下の子ども1人に対し5万円の奨励金) ※詳細は地域支援課 ☎62-2152

例: 中学生以下の子ども3人の家族が新築住宅を購入した場合

奨励金 20万円 (新築住宅購入) + 15万円 (5万円×3人の子ども) = 35万円

- ・ **臨時福祉給付金事業** (消費税引き上げに際し、町民税非課税世帯への影響を緩和するとともに町民税非課税世帯の消費の下支えを図るため、臨時的な給付措置を実施するための経費) 4375万円 (非課税者1人/1万円、高齢基礎年金受給者等1人/5千円)
- ・ **地域福祉人材育成事業** (福祉の分野に理解と熱意を持つ人材を確保・育成するための助成金) 800万円 (対象となる資格取得者の新規勤務又は資格所持者の復職5万円、勤務している者が新たな資格取得3万円) ※詳細は地域支援課 ☎62-2152
- ・ **葬祭費** (被保険者が死亡したときに葬祭を行う者に対し葬祭費として支給するための経費) 175万円 (5万円×35件) ※詳細は、町民課 ☎62-2154

平沢土地区画整理事業

(区画整理組合への補助金 今後の動向が注目される) 7280万円 最終清算には、まだハードルが、、、



橋りょう改修事業 (橋梁の耐震化調査・診断及び橋りょうの点検) 1103万円 学校橋外9橋 スtock点検22橋



(総合防災訓練は秋に役場で実施予定)

- ・ **環境騒音測定及び社会反応調査委託料** 151万円 (川島地内、越畑関越道付近、千手堂地内の3箇所を予定。社会反応とは、騒音測定を実施する3箇所付近の30世帯くらいに対し、実際騒音によってどの様な影響、被害を受けているかを聞き取り調査するもの。

※上記調査に関し誤解を招く表現があり、関係者の方々にご心配、ご迷惑をお掛け致しましたこと、深くお詫び申し上げます。

○隣り近所のお互いを思いやる心に、協力に、感謝・感動です！

2月14日から降り続いた雪は、自動車やバイクの乗り捨て、多くの車やトラックがスリップして立ち往生等嵐山町にも大きな混乱をもたらした。町執行側も担当課職員が庁舎に泊まり込みで対応。町から依頼された業者はもちろんの事、急きょ依頼された除雪機械をお持ちの方も夜遅くまで作業に従事して頂き、中にはボランティアでご協力頂いた方もおられたと聞いております。それでも全く間に合わなかったのが現実です。私の所にも「町は何をやっているんだ」とお叱りの電話も何本か頂きました。嵐山町内の降雪の状況にも違いがあり南部よりも北部の方が降雪量が多く、また、年配者の方が家から道路まですら出られなかったり、透析のためどうしても病院に行かなければ生死に係わる方など今までとは全く違った状況があちこちで起こっていました。そんな中、2月16日（日）の朝、自宅前の道路の除雪を近所の皆さんと行った際、自分の所も終わっていないにもかかわらず、年配者がお一人で住まっておられる方の家の前の除雪を手伝っておられる方がいたり、道路の日向側にお住まいの方が「日陰に溜めてしまうとなかなか融けないから、こちらに出してください。」と快く雪を受け入れてくれたり、あるご婦人は「お茶が入りましたよ」とお声掛け頂き皆さんの労をねぎらって下さいました。その時ある方が「大変だけど、みんなでこうして協力すればどうにかなるもんだよな」と明るく言われた言葉に、これこそ地域の力、自助・共助だどつくづく感じ、疲れも忘れられる程すがすがしい気持ちとなりました。

3月4日議会として町内の農業従事者の所へ被害状況の調査を実施、町へその対応を求める決議を致しました。地域支援課の調べでは、2月21日現在で農業用ビニールハウス等被害状況は、被害ハウス46、ハウス被害額251万9020円、農作物被害額240万6334円、ガラス等の被害ハウスは2、被害額は19万8900円、畜産施設等被害ハウスは6、畜産施設被害額3164万2579円、畜産被害額37万3200円、被害額総合計は、3714万33円でした。一般住宅等では、2月15日現在でカーポート、屋根、TVアンテナ、自動車等1653世帯が何らかの被害を受けました。

古里でほうれん草を栽培している方のハウス
雪の重みでパイプが大きく変形



役場職員の能力・意欲を高めるために、平成25年度から**人事評価制度**を導入し、副課長以上を対象に実施しました。評価の客観性、公平性を確保するために複数の評価者が関与し、第1次評価者は、被評価者との個人面談も実施、第1次評価者の上司を第2次評価者とし補正を図ることに加え、評価者自身の評価能力を高めるための研修も実施しています。26年度はその対象を拡大していきます。ほとんどの職員は町民の方々にとって、更に心強いサポーターになれる様、前向きに努力しておりますので、お気づきの点等ございましたら、**良い事も悪い事も**ご連絡下さい。

元気の出る町づくり！あなたの行動が行政を動かすのです！

嵐山町議会

さくま孝光

(ボンアビチュード英会話学院 学院長 英検1級・剣道6段)

討議資料

